

四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol.25

日本一の清流へ ～広見川に夢を繋ぐ～

愛媛県 鬼北町長
まつうら じんいち
松浦 甚一



鬼北町は、平成17年1月1日、旧広見町と旧日吉村が合併して新しく生まれた町で、人口13,000人弱、面積は24,000ヘクタール強で、森林が85パーセント強を占める中山間地域そのものの町です。周囲を1,000メートル級の山々に囲まれ、四万十川の最大級の支流である広見川を主流に三間川、奈良川、大宿川等大小の河川の中洲にできた盆地に開けた自然豊かで気候温暖な災害の少ない住みやすい町です。

昔から人と川との関わりは深く、広見川沿いにある縄文後期の遺跡(岩谷遺跡)がそれを証明しており、広見川と流域住民との関わりは、即、生活用水や農業用水として利活用をされ、また、豊富な「アユ」「ウナギ」「カニ」等は食糧であり、子供達の遊び場であり、人々の癒しの場でもありました。

しかし、戦前戦後の山林の乱伐、乱開発、人工林の増加等により流量の減少、生活様式の変化に伴う生活雑排水による水質の悪化、乱獲による魚類の減少は川と人との関わりが遠くなり、住民の広

見川に対する思いも希薄になり河川環境は悪くなるばかりでした。

15年くらい前から、住民から四万十川の源流である広見川を守ろうという会が発足し、以後積極的に生活雑排水処理や河川工事の工法等に提言を頂くようになりました。町もこれに呼応して森林整備の促進、土木工法の見直し、農業集落排水、合併処理浄化槽事業の推進に取り組んできました。

一方で、四万十川流域の河川をきれいにする条例を制定し、町、住民、企業の責任を明確にして河川環境の浄化に努めておりますし、住民組織の方は「広見川夢の会」と名称を改め、日本一の清流を目指して、河川環境を守り発展させる運動に(草刈、鯉の放流、ホテルの生息環境整備、講演会の開催等)努めて頂いており感謝の他ありません。

今後、行政と住民が一体となって自然を守り親しみ、広見川を守り、大きな財産を確かに後世に残したいと考えております。



広見川に鯉の稚魚を放流する小学生